令和４年度地域課題解決プログラム

ヴィジュアルコンテンツ制作・企画支援による八幡平の魅力増進
～八幡平魅力増進プロジェクト～

人文社会科学部人間文化課程（芸術文化）／ 教育学部中学校教育コース（美術）
ヴィジュアルデザイン研究室学生チーム
（発表者：保科光希、高橋眞奈美）

指導教員：教授　本村健太（人社・芸文）

序

岩手県八幡平市の安比高原（図 1）は、東北でも随一のスキーリゾートであり、かつては首都圏からも夜行バスが列をなして集まるブランド力の高いスキー場であったが、近年はスキー人口の減少もあり、集客が低迷して認知度も低くなってきている。安比高原では、2021 年度に海外のインターコンチネンタルホテルグループにブランドチェンジし、2022 年度にはハロウ・インターナショナル・スクールの誘致も決定しており、スキー場の統括には元オリンピック選手で全日本スキー連盟のマーケティング改革を導いた皆川賢太郎さんを迎えて大きな変革をすすめているところである。この流れに乗りつつ、岩手大学の学生グループによる雪上プロジェクションマッピングなど（結果的にプロジェクションマッピングの開催はなかったので、アートプロジェクトを実施した。）のヴィジュアルコンテンツの制作支援やその他のアート関連の企画提案などにより、八幡平全体の魅力増進につながる機運を醸成する。

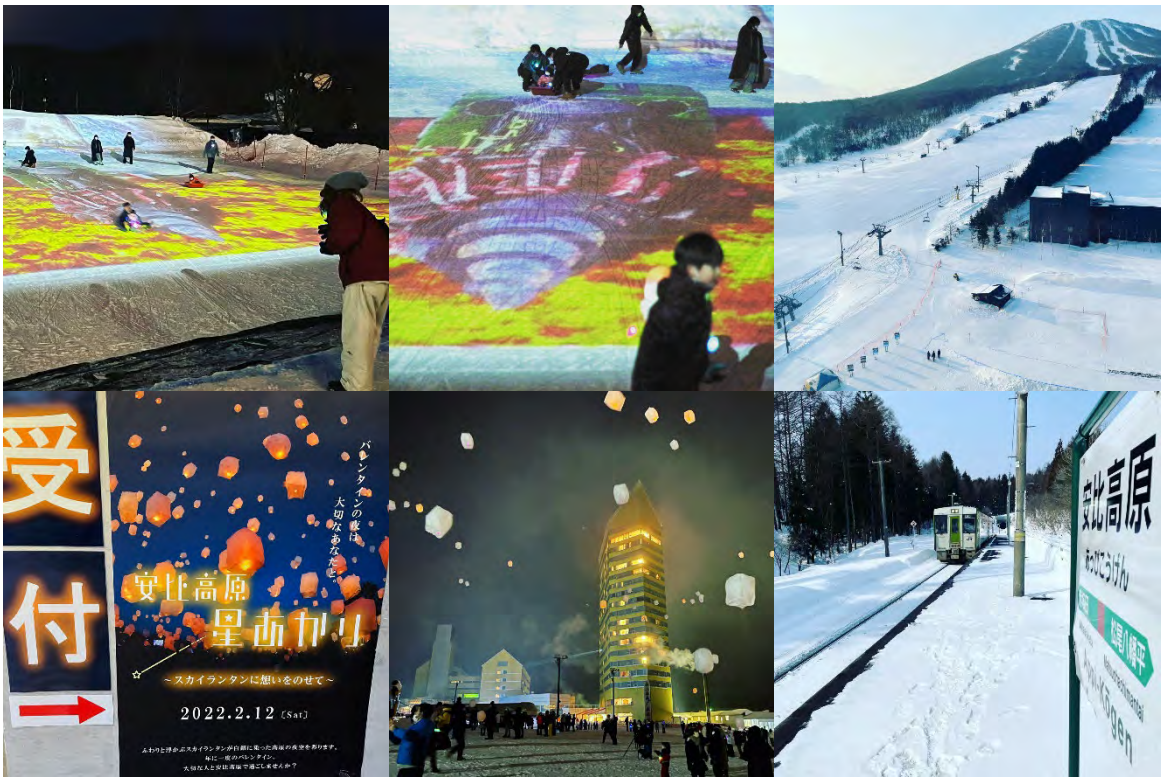

図 1：本村健太（指導教員）による打ち合わせと現地調査（令和 4 年 2 月 12-13 日）

本地域課題について、岩手大学人文社会科学部／教育学部のヴィジュアルデザイン研究室学生チーム、そして卒業研究として田屋千咲が実施した「〈八幡平の魅力増進〉のためのコンテンツ制作研究」の取り組みについて以下に報告したい。

Ⅰ．本研究課題について

（実施計画・方法）

まずは、本研究計画に興味を持って関わる担当学生を複数集めてグループを形成して、卒業研究、または関連分野の体験学修としての枠組みを明確にしていく。この学生グループを中心に、㈱八幡平 DMO、㈱岩手ホテルアンドリゾート、八幡平市等によって形成されている「雪質の魅力増進連携会議」の窓口である柴田亮さん、そしてスキー場を統括する皆川賢太郎さんなどの代表者と協議を行いつつ、具体的な実施内容の詳細を詰めていくことにする。スキー場は、地域の冬の雇用創出、近隣の民宿などの事業機会の創出、また多くのスキー客による飲食や買い物の消費活動など地域への波及効果が高く、やはりスキー場の活性化が地域の活性化につながるとされていることから、基本的には、雪質の魅力増進連携会議が安比高原において実施予定である雪上プロジェクションマッピングを目指したイラストやＣＧなどのヴィジュアルコンテンツの制作支援を計画的に準備する。さらに、現地調査を複数回実施して、学生が若い世代の代表者として関わることで、「八幡平の魅力増進」という課題に連結できるようなアートプロジェクトの企画・提案・実施・参加に新たなアプローチの糸口を探る。

上記が当初の計画であったが、実施予定であった雪上プロジェクションマッピングは、その後、開催されないことがわかったため、協議して別の表現形式でのアートプロジェクトを実施することになった。

○方法

協議により、本研究課題の実施内容については大きく次のように行うことを計画した。

1. 安比高原スキー場で開催されるアートプロジェクトの支援
2. 学生参加型の独自アートイベントの企画実施

このように、学生たちの若い世代の視点を生かして課題に取り組む計画をしたが、コロナ禍において活動が制限されることも理解し、感染防止を最優先にして気をつけながら実施することとした。

Ⅱ．今年度における研究活動の経過について

（結果・考察）

○安比アートプロジェクトに関する打ち合わせ

・令和４年４月 27 日（水）

岩手大学地域課題解決プログラムの採択前に、岩手大学芸術棟基礎実習室にて、安比高原スキー場統括の皆川賢太郎さんをはじめとする関係者の方々との打ち合わせを行った。岩手大学側では、田屋千咲（4 年）、高橋眞奈美（3 年）、本村健太（指導教員）の 3 名が同席した。

この場で、安比高原スキー場の冬季以外での盛り上げが必要であること、そしてそのためにアートプロジェクトを立ち上げて運営していくこと、そこに岩手大学の学生も関わり、可能であるならばより長期的に学生との関係を継続していきたいこと、などが確認された。

○安比アートプロジェクトに関する現地調査

・令和４年６月 20 日（月）

人文社会科学部４年生の田屋千咲、吉田雪希、千田愛梨の学生 3 名（引率：本村健太・指導教員）が現地打ち合わせを行った。

著名な写真家・映画監督である蜷川実花さんの展覧会が安比アートプロジェクトの特別企画として実施されるため、運営や独自企画など、学生たちへの支援が求められた。現地調査として、安比高原の「山麓エリア」から安比雲海ゴンドラに乗って「天空エリア」（標高 1300 m）に行き、周辺を散策した。岩手山に向かってアルプスの少女ハイジのような気分になれる「天空ブランコ」も体験した。（図 2）

図２：安比高原天空エリアの現地調査（記録写真：本村健太）

図３：安比アートプロジェクトのスタッフとしての支援活動（記録写真：橘鈴茄）

〇安比アートプロジェクトの運営支援

令和４年８月 10 日から９月 25 日の期間に、人文社会科学部４年生の田屋千咲、佐々木理名、２年生の橘鈴茄、佐藤夢華、１年生の菊池百花、永洞奈都実、紺野智瑚、鎌田真緒、上

日向花菜が映像インスタレーション「胡蝶のめぐる季節」の空間体験やアートゴンドラ運行など、アートプロジェクトの現地スタッフ（アルバイトとしての受け入れ）として交代制で参加した。（図 3）

安比 Art Project　蜷川実花　胡蝶のめぐる季節：
https://www.appi.co.jp/snow-mountain-resort/art.html

博展（ディレクション）：
https://www.adfwebmagazine.jp/art/worldwide-artist-mika-ninagawas-art-installation-colors-the-nature-beauty-of-abbi-ski-resort/

○安比アートプロジェクト「岩大 GROOVE IT」

令和４年 11 月 19 日、人文社会科学部４年生の田屋千咲、佐々木理名、１年生の永洞奈都実（引率：本村健太）は、安比リゾートセンター＆安比プラザに学生作品を持参して１回目の展示作業を行った。（図 4）

図４：「岩大アート GROOVE IT」の展示作業１回目（記録写真：本村健太・柴田亮）

１回目の展示作品（7 点）：

「Temperature(Ⅰ)」田屋 千咲（4 年）
「仮名　臨・小島切」佐々木 理名（4 年）
「眠る 12 星座 さそり座」「眠る 12 星座 やぎ座」希衣子（3 年）
「澄みの標」永洞 奈都実（1 年）
「冬コンサート」「天宮の夢」ヨウ シンイク（院 2 年）

「安比 Art Project 岩大 GROOVE IT」への思い

展示を見てくださる方に、「自然」をテーマに制作しました。展示作品を楽しんでもらい、自分たちの作品（テーマ:自然）をきっかけに、自然に目を向けて、自然豊かな安比高原を楽しんでもらいたい、と言う思いから、「groove it（意味：楽しむ）」という展示に仕上げました。さらに、「安比高原の自然から得られる感覚、感情」という意味でも、「groove」と言う言葉を使いました。また、学生（作家）の立場より、「自然」から得た感覚や感情からの作品制作・展示を楽しみながら作り上げるという思いも含まれています。（田屋千咲）

図５：展示会場に掲示するためのロゴ（制作：田屋千咲）

図６：展示会場に掲示するためのロゴ（制作：田屋千咲）

卒業研究としても取り組んでいる田屋千咲は、「安比 Art Project 岩大 GROOVE IT」の展示だということがわかりやすいように掲示するためのロゴを制作した。（図５、図６）

令和５年１月 18 日、人文社会科学部４年生の田屋千咲、佐々木理名（引率：本村健太）は、安比リゾートセンター＆安比プラザに学生作品を持参して２回目の展示作業（１回目に展示した書道作品は大学に額縁の返却が必要なため回収）を行った。（図 7）

図７：「岩大アート GROOVE IT」の展示作業２回目（記録写真：本村健太）

２回目の展示作品（6 点）：

「Temperature(Ⅱ）」「Temperature(Ⅲ)」 田屋千咲（4 年）
「帰省」保科光希（3 年）
「眼前の景色」齋藤優佳（3 年）
「銀色の月光の下で」「蘇南小曲」ヨウ シンイク（院２年）

○卒業研究「〈八幡平の魅力増進〉のための企画制作研究」

ここで、田屋千咲が卒業研究として展開した内容を紹介する。

研究活動の経緯について：

７月の打ち合わせの時点では、「安比 Art Project」の第一弾で展示される蜷川実花さんの「天空エリア」の展示会場まで、学生の制作物でゴンドラからの導線を作ることが予定されていたが、その後、話し合いを重なるなかで、導線ではなく、安比 Art Project の一環として学生展示をすることになった。そこで、本件に興味をもつ岩手大学の学生を対象に参加を募った。そうして、八幡平の魅力増進に繋がるという点から、安比の八幡平の魅力である豊かな「自然」を展示作品のテーマとして掲げることにした。参加者にもこのテーマを共有し、自然をテーマにした展示作品を集めた。

また、プロジェクト名として「岩大アート GROOVE IT」と名づけた。英語の「GROOVE IT」は「楽しむ」という意味をもつことから、安比高原の魅力である雄大な自然を楽しもうという想いを込めた。展示スペースには、「岩大アート GROOVE IT」の作品展示であることが分かるように、プロジェクト名のロゴ（A3 サイズ）を制作した。さらに、安比高原で学

生の作品展示を行っていることを伝達するためにDM（ポストカード）も制作した。DMには展示スペースに貼ってあるロゴデザイン統一感を出した。DMは安比高原の他に、盛岡市内のカフェやギャラリーに置かせてもらう予定をしている。

展示作品について：

展示に向けて、「自然」というテーマを元に「TemperatureⅠ」「TemperatureⅡ」「TemperatureⅢ」の３作品を制作した。これらの作品は、「水の状態変化」をコンセプトにしている。温度による水の状態変化を表現するために、配色については、「サーモグラフィー」をモチーフにした。（図８）

「TemperatureⅠ」は「水」、「TemperatureⅡ」は「氷」、「TemperatureⅢ」は「気体」を意図して表現している。

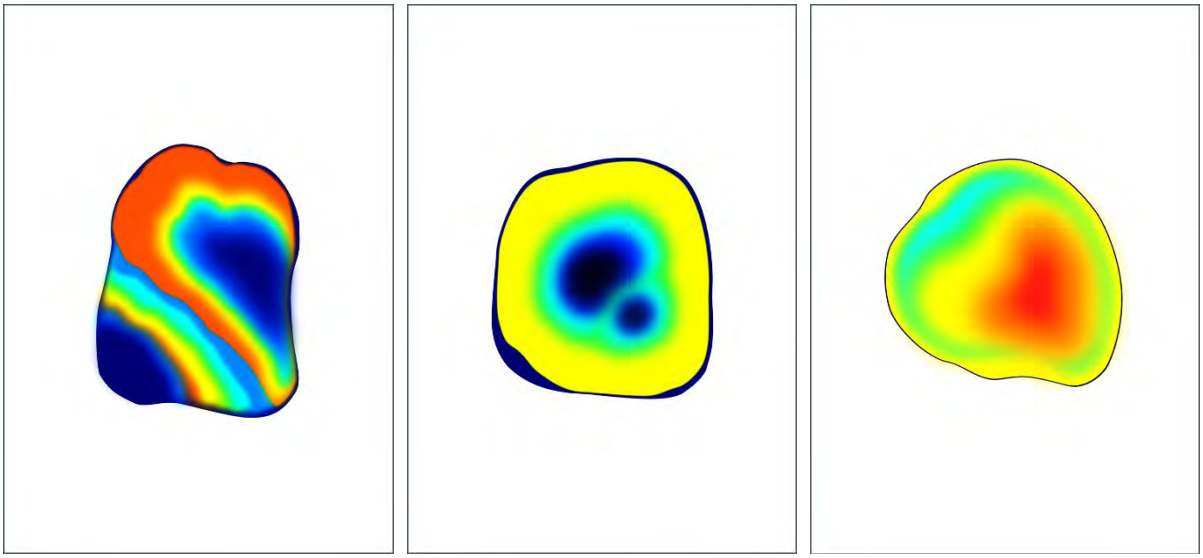

図８：「TemperatureⅠ」、「TemperatureⅡ」、「TemperatureⅢ」（制作：田屋千咲）

○修了研究「音楽と関連性のあるヴィジュアル表現の制作研究―デジタル平面作品における基礎造形的実践について―」

大学院 総合科学研究科 総合文化学専攻 アート発信プログラムの院生 YANG　CHENYU（ヨウ　シンイク）も、修了研究における作品（修了制作）を「岩大アートGROOVE IT」での展示作品として提供することになった。

作品タイトル：
1)「銀色の月光の下で」
2)「霓裳羽衣」（げいしゃううい）
3)「延河畔に親を迎える」
4)「蘇南小曲」
5)「茉莉花」（まつりか）
6)「彩雲追月」（彩られた雲が月を追いかける）

これらの作品は、中国民族音楽の曲から単に発想を得るだけでなく、その楽曲の形式構造および旋律の変化を分析し、絵として描く線の構成において参考にしている。そうすることによって、線の構成が作品のリズム感や時間軸の変化を表現できるようにしている。また、音楽における強弱コントラスト、速度、調性、ハーモニーによる感情表現を色彩構成の参考にしている。音楽と結合した色彩理論に基づくとともに、楽曲に抱いた感情を加えながら色彩構成を行っている。

現在は、下記の作品２点「銀色の月光の下で」、「蘇南小曲」を現地に展示しており、次の機会に追加や作品の入れ替え作業を予定している。（図 9）

図 9：「銀色の月光の下で」、「蘇南小曲」（制作：ヨウ シンイク）

〇本研究活動に関わった学生の感想例（抜粋）

今回の学生展示の取り組みでは、私を含め 7 人の学生が参加した。今後も、継続的に安比高原での作品展示を行う予定である。今後の活動の中で、在学生に限らず卒業生など、参加者の幅を広げることで、さらなる活動の発展が見込めるのではないかと考える。私は最初、スキー場とアートの結びつきが意外であると感じた。しかし、アートプロジェクトの運営支援としてアルバイトスタッフで参加した、安比 Art project「胡蝶の旅 Embracing Lights」には、幅広い年齢層の方々、そして海外からの観光客が訪れていた。その様子を見て、アートはスキー場の新たな魅力を作り出すための役割を担っていると感じ、アートの可能性を感じた。今後も、安比 Art Project の様々なアート企画を通して、新たなスキー場としてのあり方を確立させていく様子に注目していきたいと思う。（田屋千咲）

安比アート・プロジェクトでは泊まり込みでアルバイトをさせていただいた。主にお客様の誘導や展示会場の清掃を担当していた。展示作品の素晴らしさもそうだが、安比が冬だけの需要を覆してイベントを誘致しているのを見て、イベントの企画力やアイデア力が並外れていると感じた。廃ゴンドラ場を工夫して幻想的な展示会場に創り上げたり、ゴンドラ内を花々の写真で彩ったりと行きでも帰りでも楽しめるような素晴らしい空間であった。また夜にはゴンドラ内がライトアップするため１度で何度も楽しめるところもポイントが高いと感じた。イベンターの私たちのアルバイト活動を支えてくださった方の英語が堪能で、近くの外国語学校の生徒が来場した際も難なく案内していて、英語力ももっと鍛えたいと思った。（橘鈴茄）

[謝辞]
本研究プロジェクトに関して、たいへんお世話になった安比高原スキー場統括の皆川賢太郎さん、八幡平 DMO の柴田亮さんをはじめ、株式会社岩手ホテルアンドリゾート、安比高原スキー場の皆様に心より御礼申し上げます。